

高度成長期における奈良市の水問題

1. 「家を建てても給水はできない」

私が子供のころテレビで住宅団地が映し出され、「建物が完成しているが水道が引けていないので住むことが出来ない」というニュースを見た記憶があります。

「家を建てても給水はできない」という奈良市の方針は、[右の新聞記事](#)(リンク先で拡大表示されます)に示すように、1967年(昭和42年)5月10日の鍵田奈良市長の発言から始まっています。市長発言にある日本住宅公団(現 都市再生機構)が計画していた平城ニュータウンだけでなく、建設途中の民間事業者に対しても同様の措置を執っています。

鍵田市長発言の背景について、[5月15日付の大和タイムズ](#)(リンク先で記事が表示されます)では次のように紹介しています。

- 現時点の人口175,000人、近年の人口増加率は毎年10%を越え、昭和50年に30万都市になると予想していたのが、今では335,000人、人口が2倍になると見込まれ、さらに市域で4万人規模の平城ニュータウンが上乘せされるといふ人口の急増の問題。
- 昨年20日間にわたり一部地域で断水が生じ水道行政への非難があつめたことと、昭和44年以降の給水見通しがたっていないという水道の問題。

1966年の断水は西部の住宅団地、旧市街地高台などで約8,000戸に及ぶ大規模なもので、近隣市町からだけでなく自衛隊も給水出動するなど大変だったことから、記事では市長が「見通しがつくまで平城ニュータウンへの給水は引き上げられない」と語っていることが肯定的に紹介されています。

また[10月18日付の大和タイムズ](#)(リンク先で記事が表示されます)によれば、奈良市議会建設水道委員会で水道局は保留にしている宅造業者からの給水申込が15,617戸に達していることを明らかにしました。



2. 自然流下導水事業の推進と木津川取水の安定化

当時、奈良市水道では1961年度から第3次拡張計画として、木津川支川の白砂川、布目川を水源とする自然流下導水事業([水道主要施設位置図](#)参照)を進めていました。奈良市が1959年12月25日付で白砂川、布目川の[水利権](#)申請を行っていましたが、許可を得たのは1965年2月1日でした。

水利権取得に時間がかかったことから緑ヶ丘浄水場建設(1963年完成)を先行して行っていました。水利権取得後、導水路事業をスタートさせ、布目川、白砂川から緑ヶ丘浄水場までの自然流下導水路は1967年6月に完成しています。また導水路の途中、沈殿池と原水取水量の調整のための須川ダムも同年9月着工ということで、市長発言時にはこの自然流下導水事業の用途は立っていました。

しかし1959年当時申請された水利権は木津川からのポンプアップ導水から自然流下導水への水利権に切替えるものでした。須川ダムが完成し自然流下導水事業が完成した段階で木津川からの取水が出来なくなる事態を想定し、「昭和44年以降の供給見通しが立っていない」という発言につながっています。

木津川での水利権は1968年3月失効しましたが、1969年10月暫定水利権が認められ、1970年6月暫定水利権が継続され、1971年8月に再取得が実現しています。

この間の水道に関する動きとして、1968年平城ニュータウンの建設受入、1969年9月に須川ダムの工事が完成し湛水開始、11月に新たな水源として県営水道からの受水申込み、12月に給水制限の大幅解除、1970年10月須川ダム竣工がありました。

3. 需要増に応える水資源開発

戦後復興期から高度経済成長期にかけての大都市の住宅問題解消のため、1955年に日本住宅公団が設立され、都市近郊のベッドタウンとして奈良市を始め各地で大規模な住宅団地の建設を進めていました。また上水道や工業用水などの都市用水の不足も顕在化して、複数の都府県にまたがる広域での水資源開発を行うため水資源開発公団(現水資源機構)が1962年発足し、初めに淀川水系と利根川水系で水資源開発を開始しました。奈良市にとってタイミングが良かったのは、木津川の取水地点上流の名張川流域で水資源開発公団が高山ダム、[青蓮寺ダム](#)を建設し、それぞれ1969年度、1970年度から管理を開始したことです。両ダムからの既得用水への補給の中に奈良市の木津川からの取水分も含まれていたのでしょう。

「家を建てても給水はできない」という奈良市水道の方針は新居を求める都市住民にとって大きな問題であったことから、関西のテレビや新聞で関心を持って大きく伝えられたのでしょう。これらに呼応した国の政策の拡充による水資源開発公団の新設や専門技術者による大規模な水資源開発により水問題は順次解決されていきました。

奈良市水道は、その後、水資源開発公団が建設した[布目ダム](#)、[比奈地ダム](#)に利水者として参加し、白砂川、布目川からの自然流下導水を主な取水源として、木津川からの取水そして県水道からの浄水受水という3つの水源を使い人口急増の時代を乗り切りました。

補足

布目ダム 公団が布目川で奈良市取水堰の上流に建設した多目的ダム。1967年から経済企画庁及び奈良市による基本計画調査と、建設省が予備調査をすすめ、1971年公団事業として建設開始。1992年4月より管理開始。水道用水として奈良市1.08m³/s、旧都祁村0.0463m³/s、山添村0.0097m³/s 補給します。

比奈地ダム 公団が名張川上流に建設した多目的ダム。1972年公団事業として建設開始、1999年4月より管理開始。水道用水として名張市0.3m³/s、京都府0.6m³/s、奈良市0.6m³/s 補給します。

参考文献

- 1) 奈良市水道50年史 1973年
- 2) 中本宏明編 『奈良の近代史年表』 1981年

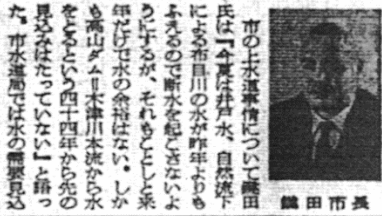
下線表示部分はクリックで別ファイルが開きます。



(文責 古川博一)

大団地建設お断わり

平城ニュータウン



鎌田市長

市の下水道事情について鎌田氏は「今夏は井水、自然流下による布目川の雨が昨年よりもふえるので断水を懸念しないようにするが、それと並行して来年度だけ水の余裕はない。しかも高山ダム、木津川本流から水をくるという四十四年から先の見込みは「足りない」と断つた。市水道局では水の需要見込

水道の給水はできぬ

鎌田市長 住宅公団へ正式申し入れ

平城ニュータウンは奈良市の歌盛町、細野町、佐紀町、山崎町のほか京都府相楽郡木津町、精華町の一市二町の県境にまたがる約六万の丘陵地を開発し、日本住宅公団が将来七万人(奈良市地帯は約四万人)の都市を建設しようというもので、すでに計画はできあがり、一部着手されはじめている。この地域の下水道計画については、奈良市は去る三月に「四十四年度において木津川よりの手

断わり」という態度を決めたらけ。平城ニュータウンは奈良市の歌盛町、細野町、佐紀町、山崎町のほか京都府相楽郡木津町、精華町の一市二町の県境にまたがる約六万の丘陵地を開発し、日本住宅公団が将来七万人(奈良市地帯は約四万人)の都市を建設しようというもので、すでに計画はできあがり、一部着手されはじめている。この地域の下水道計画については、奈良市は去る三月に「四十四年度において木津川よりの手

断わり」という態度を決めたらけ。平城ニュータウンは奈良市の歌盛町、細野町、佐紀町、山崎町のほか京都府相楽郡木津町、精華町の一市二町の県境にまたがる約六万の丘陵地を開発し、日本住宅公団が将来七万人(奈良市地帯は約四万人)の都市を建設しようというもので、すでに計画はできあがり、一部着手されはじめている。この地域の下水道計画については、奈良市は去る三月に「四十四年度において木津川よりの手

断わり」という態度を決めたらけ。平城ニュータウンは奈良市の歌盛町、細野町、佐紀町、山崎町のほか京都府相楽郡木津町、精華町の一市二町の県境にまたがる約六万の丘陵地を開発し、日本住宅公団が将来七万人(奈良市地帯は約四万人)の都市を建設しようというもので、すでに計画はできあがり、一部着手されはじめている。この地域の下水道計画については、奈良市は去る三月に「四十四年度において木津川よりの手

断わり」という態度を決めたらけ。平城ニュータウンは奈良市の歌盛町、細野町、佐紀町、山崎町のほか京都府相楽郡木津町、精華町の一市二町の県境にまたがる約六万の丘陵地を開発し、日本住宅公団が将来七万人(奈良市地帯は約四万人)の都市を建設しようというもので、すでに計画はできあがり、一部着手されはじめている。この地域の下水道計画については、奈良市は去る三月に「四十四年度において木津川よりの手

断わり」という態度を決めたらけ。平城ニュータウンは奈良市の歌盛町、細野町、佐紀町、山崎町のほか京都府相楽郡木津町、精華町の一市二町の県境にまたがる約六万の丘陵地を開発し、日本住宅公団が将来七万人(奈良市地帯は約四万人)の都市を建設しようというもので、すでに計画はできあがり、一部着手されはじめている。この地域の下水道計画については、奈良市は去る三月に「四十四年度において木津川よりの手

大和タイムス

発行所 奈良市三條町604
大和タイムス社
電話 (代) 奈良 5 628

社務
○大和タイムス社 1967

三笠山

ミカサヤマ

村田源吉株式会社

三笠山

ミカサヤマ

村田源吉株式会社

初め婦人副議長
—河合村雄一—
【王寺端】北葛城郡河合村の婦人副議長は十日午前九時半から開かれた。議長は吉村佐敏、副議長は高橋敏子と町村では初の婦人副議長が生まれた。

五条中学校の育友会の値が、同時に罰用を算するワタ上げが父負担軽減に資するにしろられて、万事にまかるとして問題になってゐる。今にはじまったことではないが、万悪の根柢は、すべてが、それだけに余計に安易な自治体財政の苦しさや事情に寄付集めの絶えないことを痛感せざるをえない。

たしかに、この種の寄付集金は、通じての寄付金に依存する所にある。何かと、安易といふよりか、原則を無視した行きすぎであるといえるが、さらにはいつてもかでも育友会組織を通じての寄付金に依存する所にある。何かと、安易といふよりか、原則を無視した行きすぎであるといえるが、さらにはいつてもかでも育友会組織を通じての寄付金に依存する所にある。

こう思う

育友会を自己に、学校の後援的な性格があるという前提に立つとしても、これを公費を反省する姿勢がまったく失われている。あつたいて育友会何するものぞ、と育友会に固執するあるゆえんという声が上がらるのも当然の成り行きといふべきである。五条中学の場合は、体育館敷地を公費負担の原則は、百万円を育友会員の寄付でまこと新しくいふまでもない。

育友会を自己に、学校の後援的な性格があるという前提に立つとしても、これを公費を反省する姿勢がまったく失われている。あつたいて育友会何するものぞ、と育友会に固執するあるゆえんという声が上がらるのも当然の成り行きといふべきである。五条中学の場合は、体育館敷地を公費負担の原則は、百万円を育友会員の寄付でまこと新しくいふまでもない。

助役は二人制に

鎌田市長 今月末に財政白書出す
助役を二人制にするの三役人
今月末に市の財政白書と水道事は六月市議会で承認を求め、白書をだし、私の引き継ぎを

助役を二人制にするの三役人
今月末に市の財政白書と水道事は六月市議会で承認を求め、白書をだし、私の引き継ぎを



発行所 奈良市三条町608
大和タイムズ社
電話(代)奈良 6262



社説
○大和タイムズ社 1967

一万五千六百戸が積滞

奈良 宅造業者の給水申込み

奈良市は人口の急増で、これ以上「宅地造成業者の給水申込みには応じられない」という態度をとっているが、このため、現在市水道局で「保留」となっている宅造業者からの給水申込みは一万五千六百十七戸にも達している——ことが十七

日の市会建設水道委員会で青崎市企業管理者から報告された。「家を建てても給水できない」というこの市の方針は、今春から「団地建設お断り」などで再三明らかにしており、急増する住宅開発と人口増に対処するための将来の水源見直しを

たないところから、いわば自衛措置として示されているもの。現在の給水人口(約十六万人)で市の現有給水能力はいっぱいというわけ。そこで宅地造成業者から給水申込みがあっても市はその手続きに「待った」をかけている

が、これが十七日の委員会報告によると一万五千六百十七戸に達しており、そのうち約一万五千戸が西郊開発地帯となつてい

条工業地一件、五百五十三戸、京終井戸配水系。▽帝塚山ニエシタウンほか十五件、五千九百四戸。▽富雄井戸配水系。▽財務部合同宿舍七十二戸。▽東部緑ヶ丘配水系。▽恒和西団地ほか八件、八千八百七十戸。▽西御緑ヶ丘配水系。▽大登岡業ほか二件、二百十八戸。▽低区配水系。日本住宅公団が建設中の西郊中登岡地も給戸数二千八百戸のうち一千八百戸は給水を受け入れたが、残り約一千戸は同公団と協議中。

このため市は、住宅造成を計画的に受け入れたいと「団地造成受け入れ計画」をいま策定中だが、これにはいろいろと問題が多く、すぐにはできない状態。したがって四十四年に完成する自然流下導水事業による須川ダムで七万四千トの給水見通しと、木津川取水の復活を考慮にいれても日量約十一万トの水源は少なく、一方、県営水道への参画なども申し入れているが、市の将来の水源見直しはきわめてきびしいことからこれらの給水申込みを「二年程度延期してもらえない」という状態。市水道局では、きわめて異例の事態だと苦慮している。

鍵田発言 各方面で大きな反響



発行所 奈良市三条町404
大和タイムズ社
電話(代)奈良 6281
社章
大和タイムズ社 1967

中卒の雇用説明会

高田豊二
高田豊二君は、高田製菓安定所から十七日から十九日まで管内の商店、事業主をめぐりて来月三月、中学校卒業生を募集する就業者の雇用説明会を開く。同安定所は六月一日から求人受け付けを開始するので、卒業生を採用したい雇用者は必ず出席するよう呼びかけている。説明会の日程は次のとおり。時間はいずれも午後一時半から。

▽17日 高田商工会議所 対象は高田、北葛地域▽18日 御所商工会 対象は御所地域▽19日 橿原中央公民館 対象は橿原、高市地域

投資増に自衛の構え

真意は？……公団など注目

平城団地建設 給水お断わり

奈良市西郊の急激な住宅開発のなかでもとくに大規模計画の平城ニュータウンの建設について、鍵田新奈良市長が就任早々に団地造成に伴う公共投資を再検討する見通しがつくまで団地への給水は引き上げられないと発言したことは、各方面で大きな反響を呼んでいる。とくに建設省近畿建設、住宅公団や開発業者はこの「鍵田発言」の真意をよみとらうと奈良市政に注目しており、投じた一石の波紋は大きく広がる様相を示している。

投資増に自衛の構え

真意は？……公団など注目

平城団地建設 給水お断わり

鍵田氏は「市の水道事情から水の余裕がない」とまた「市の財政事情はまさに破綻の状態で新設の公共投資は再検討する」という説明をされている。つまり水がないから、このままでは大団地への給水はできない。金がないから新設の学校づくり、道路づくりは再検討する。といふことであるが、ただそれだけでなく、その意図するところには、この「水」の3つがあると思われる。

その1は、他府県の大都市周辺の市町村で多く問題化しているように、団地建設による公共投資の負担にたえかねるといふ今後の自治体の構えがある。県下では奈良市のほか橿原市や広陵町、香芝町も同じような悩みをもっている。

その2は、これまで無計画にすすんできた宅地開発——人口増加にブレーキをかけて、計画的に全市の調和を保つていくという考えである。将来的な奈良の人口予測とその機能の配分という人口計画をどのように見るといふことにもつながっている。

そして、3が水の問題。奈良市の将来の水確保という面から、政治的発言であるという見方がある。つまり木津川からの取水

水復活(四十五年以降)を有利に早期に解決して、現在におきましても約四十億円と市は試算している。これに団地造成後の税金収入見込み額約四億八千万円、ニュータウン完成は昭和五十六年とされているから、その計算でいくと四十億円の投資に対して税金でかえってくるのは約二十年先。しかも鍵田氏のいうように「その金を借りていくと、毎年一億二千万円ずつ利子を払っていかねばならぬ」といふことになる。

つまり、高松市長が「これはこれだけの協力的であったが、鍵田市長は「いままでのメンツにこだわらずに、さきさきしたほうがよい」といふところから、市財政とつりあいを考えない宅地造成——団地建設に、待ったをかけた。

この平城ニュータウンは奈良市の東部、御所町、佐紀町、山崎町、橿原市、京都府相楽郡木津町、橿原市の一市二町の境域にまたがる約六万坪の丘陵地を開発して、日本住宅公団が将来七万人(二万八千戸)の都市を建設しようとするもので、計画に基づいてすでに九割の用地買収も終わっている。パイロットプランに基づいた市の公共投資は小学校四校、中学校二校、保健所、消防署、ゴミ処理場、下水

水復活(四十五年以降)を有利に早期に解決して、現在におきましても約四十億円と市は試算している。これに団地造成後の税金収入見込み額約四億八千万円、ニュータウン完成は昭和五十六年とされているから、その計算でいくと四十億円の投資に対して税金でかえってくるのは約二十年先。しかも鍵田氏のいうように「その金を借りていくと、毎年一億二千万円ずつ利子を払っていかねばならぬ」といふことになる。

つまり、高松市長が「これはこれだけの協力的であったが、鍵田市長は「いままでのメンツにこだわらずに、さきさきしたほうがよい」といふところから、市財政とつりあいを考えない宅地造成——団地建設に、待ったをかけた。

この平城ニュータウンは奈良市の東部、御所町、佐紀町、山崎町、橿原市、京都府相楽郡木津町、橿原市の一市二町の境域にまたがる約六万坪の丘陵地を開発して、日本住宅公団が将来七万人(二万八千戸)の都市を建設しようとするもので、計画に基づいてすでに九割の用地買収も終わっている。パイロットプランに基づいた市の公共投資は小学校四校、中学校二校、保健所、消防署、ゴミ処理場、下水

水復活(四十五年以降)を有利に早期に解決して、現在におきましても約四十億円と市は試算している。これに団地造成後の税金収入見込み額約四億八千万円、ニュータウン完成は昭和五十六年とされているから、その計算でいくと四十億円の投資に対して税金でかえってくるのは約二十年先。しかも鍵田氏のいうように「その金を借りていくと、毎年一億二千万円ずつ利子を払っていかねばならぬ」といふことになる。

つまり、高松市長が「これはこれだけの協力的であったが、鍵田市長は「いままでのメンツにこだわらずに、さきさきしたほうがよい」といふところから、市財政とつりあいを考えない宅地造成——団地建設に、待ったをかけた。

この平城ニュータウンは奈良市の東部、御所町、佐紀町、山崎町、橿原市、京都府相楽郡木津町、橿原市の一市二町の境域にまたがる約六万坪の丘陵地を開発して、日本住宅公団が将来七万人(二万八千戸)の都市を建設しようとするもので、計画に基づいてすでに九割の用地買収も終わっている。パイロットプランに基づいた市の公共投資は小学校四校、中学校二校、保健所、消防署、ゴミ処理場、下水

「鍵田発言」の見通しがつくまで平城ニュータウンへの給水は引き上げられない」と語ったのはむしろ当然とみられている。

自然流下排水事業が完成してからは、市の急激な人口増加のために水の絶対量が足りない。そこで須川ダム完成(四十四年)後は現在取水している木津川からの水利権を廃止しなければならぬことになる。これを「何としても復活させよう」という考えをされている。

市議会も去る三月の要請決議で関係各府県に陳情、市一体となってこの「水とせせせ」を呼びかけている。

ところがこの木津川水系は下流京阪神もそって水確保に必要になっており、奈良市の取水復活は容易でない。将来は湖の水位を下げる下げないの論争とともに近畿各府県が、水争いをしているから、この問題を中心とした市の将来計画もできていないままに、奈良市は、お先まっ暗、という状態にある。

先まっ暗、という状態にある。お先まっ暗、という状態にある。お先まっ暗、という状態にある。

正副議長の選考難航

一部には党内投票の声も

自民党 一部には党内投票の声も

十五日の臨時県会を前に正副議長など県会役員を選考している自民党県連執行部は、十四日午後に奈良市内の清水橋で、十五日の臨時県会を前に正副議長など県会役員を選考している自民党県連執行部は、十四日午後に奈良市内の清水橋で、

果健金財政のメドつく

大幅な県税収入の伸び

果健金財政のメドつく

果健金財政のメドつく

水の問題

水の問題

来年四月開校

来年四月開校